粟津惣中
波佐谷惣中

六月朔日。溫井景隆等、羽咋郡四町村の永三に、貳拾俵の地を扶持す。

【四町村文書】羽咋郡　**一六七〇**

從二先年一至二此度一迄、此方へ見付馳走之段神妙候。就レ其大河分之内を以、貳拾俵令二扶持一候。彌分而可レ抽二忠節一事干用候。穴賢々々。

天正八
六月朔日　　(溫井)景隆　在判
　　　　　　(三宅)長盛　在判

四町永三

六月五日。溫井景隆等、鳳至郡諸橋村次郎兵衞をして、諸橋六鄕の百姓に馳走を命ぜしむ。

【諸橋文書】鳳至郡　**一六七一**

此度別而於レ抽二馳走一者、千疋永代可レ令二扶持一候。涯分六鄕之百姓共不レ殘罷出、普請等に至迄急度馳走仕候樣、可レ申付事肝要候也。穴賢々々。

天正八年
六月五日　　(溫井)景隆　在判
　　　　　　(三宅)宗隆　在判
　　　　　　(平)堯知　在判
　　　　　　(三宅)長盛　在判
　　　　　　(遊佐)盛光　在判

諸橋
次郎兵衞どのへ

六月九日。本願寺教如、越中勝興寺に、加越の實情視察の爲に寺内織部佑等を派遣したることを報ず。

【勝興寺文書】越中　**一六七二**

急度染レ筆候。當國(越中)・賀州之事、近年餘無二正体一猥に付而、國之樣躰爲レ可二聞屆一、寺内織部佑・井上善五郎等をさし下候間、被二相談一、再度遂二本意一候樣に各馳走、(候者脫カ)佛法世間共以可レ悅入レ候。猶按察法橋(下間頼龍)可レ申候。穴賢々々。

(天正八年)
六月九日　　教如　在判

勝興寺御房

七月六日。越中の波々伯部秀次、上杉景勝の臣黑金景信に、景勝の加賀出馬を慫慂せしむ。

【別本歷代古案】　**一六七三**

乍レ恐令レ啓二上一候。仍渡野邊藏助被二罷下一候間、兩國之樣子態申上候。

一、賀州表之儀、去月廿三日ニ於二西河口一合戰候而、御山之人數二百余うちとられ候。又去月廿八日ニ山内之口ニて合戰候而、三百七十餘うちとられ候。何も山内衆の勝ニ罷成候間、可レ被レ得二其意一候。早速御屋形樣(上杉景勝)被レ成二御出一候者、先以三ケ國ハ其日ニ御利運ニ可二罷成一候。加越之諸一僉(揆)、何も〳〵相待申候。

一、當國(越中礪波郡)河上表之儀、井波も明申候。其外要害其他もなをし被レ申候。就レ其諸侍諸一僉、其表早速被レ成二御出馬一候へかしと相存候。先勝ニ可レ被レ成候間、彌早々御調儀專一ニ候。五ケ山(越中)・白河(飛驒)までも無二別儀一相待申候間、可レ被レ成二其御心得一候。態筆ニ申度候へ共、有增卒度々々申上候。委渡藏へ申渡候間、態可レ被二御尋一候。恐惶謹言。

(天正八年)
七月六日　　(波々伯部三河守)波三　秀次

(黑金兵部少輔景信)黑兵樣
　　參人々御中

(山内衆とあるは一向一揆の首領鈴木出羽守の一味なるべく、御山衆は佐久間盛政の勢なるべし。西河はニシカハにして、石川郡白山宮附近に於いてその西方を流るゝ手取川の一部をいふ。)

七月十七日。織田信長、本願寺教如に、その大坂開城の後加賀を返付すべきこと等を約す。

【本願寺文書】山城　**一六七四**

條々

一、人質爲二氣仕(遣)一可レ遣事。

一、往還末寺如二先々一事。

一、賀州之儀、大坂退城以後於レ無二如在一者可二返付一事。